い反発と批判でした。

社説·発言 *

政権への思い入れは深く、検察捜

国民が自らの手で誕生させた新

査に官の組織的抵抗や民主党潰し

5

スコミも一蓮托生とみなされたよ

の疑惑を抱いたからでしょう。マ

権力の監視と未来への提言がわ

新聞週間を迎えての感慨です。 メディアにとってことし最大の

事件は、民主党の小沢一郎幹事長 たしたちの任務―が六日からの

どよく眠らせる」拱手傍観への冷ば、「眠れる検察」や「悪い奴ほ 購入をめぐる検察捜査とこれを報 の資金管理団体「陸山会」の土地 道した新聞やテレビへの世論の これまでの検察への批判といえ

別な存在と認めてきました。

われてすらならないとされます 捜部捜査では公正さや公平さを疑

情報操作の危険の自覚

らないのは当然ですが、ことに特

核心の陸山会の四億円の土地購

憲法は新聞などの報道機関を特

うに監視・抑制したり国民の知る

国民から期待されてきたのは

かどうかは疑問です。

購入資金のなかにゼネコンから

捕して罰するほどの悪質性がある ったとしたら、現職衆院議員を逮 説明通りの家族名義の私的資金だ 資金が小沢幹事長の記者会見での

|悪の剔抉」で、そのためには

看が恣意的な権力行使をしないよ

メディア批判ですが、それでも

歴史と時代の転換期。

厳しい

うでした。

も正当とするなどの判 廷で証言拒否すること 取材源秘匿のために法 な取材も、新聞記者が

2010 • 4 • 4

説得することを違法とはしません 秘義務と戦い、秘密を明かすよう な役割と認定し、国家公務員の守 権利に奉仕することを報道の重要

でした。公務員への根気強く執拗

が不可欠でもあるからです。 治権力と切り結ぶには世論の支持 絶対的正義でなければならず、政

じっていてこそ特捜部捜査の たとされる一億円のヤミ献金が混 の裏献金や水谷建設役員が供述し

笑や落胆で、政権与党最大の実力

者の疑惑追及に拍手でなく反発が

例も積み重ねられまし

小沢幹事長の事件で

起こったのは前代未聞でした。

検察もメディアも同罪

関に期待する権力監視の重大な役 のメディア批判は、憲法が報道機

から負託された権力の行使には、

適法で公正かつ公平でなければな

りました。 かの問いかけであり、不信でもあ 割を検察に対しても果たしている 民主主義国家での検察は、

国民

確かに政治資金規正法は罰則が

禁固五年以下で、形式的とも軽微

な法律ともいえません。しかし、

執拗な取材も報われることは少な 早朝から深夜、未明までの熱心で いようです。それゆえに検察と

週 のはじめに考える

る義務が残りました。 のです。メディアに公判を検証す 正、公平の大義が保てるというも 検察からの情報入手が至難なの

は今も昔も変わらないようです。

拘束などで釈然としないものを残

正法違反での現職国会議員の身柄 制捜査のタイミングや政治資金規

この点で今回の小沢事件は、

強

したことを否定できません。

体とならないと情報が取れなかっ す。 は当局の捜査情報に多くを依存し まう危険をはらみます。 たり、当局の情報操作に乗ってし べき教訓でしょう。 ますから当局が描く事件の構図や 世界のトップだった一人当たりの も落ち込んで、一九八〇 えなければならないからです。 **手を貸している」との批判を必ず** 筋書きに影響される宿命を免れま 何より読者に情報の「真実」を伝 も一蹴できない理由です もともと警察や検察の事件報道 未来への提言も難しいテーマで 日本の誇りだった各経済指標 「新聞は当局の情報操作に りません。それが汲む 識を高めていくしかあ ありません。情報操作 の敗北の歴史は少なく の危険性を自覚しつ 権力との関係で新聞 取材力を磨き、 わたしたちは)年代には 、見 難問解決の妙手の成長戦略を描き 保った世界第二の経済大国もこと るのだといわれます。少子高齢化 戦する気概を失ったとき国は滅び ません。困難に直面して国民が挑 きれないでいます。 と不安定雇用の格差社会に変わり し中には中国に譲り渡します。 やグローバル経済、脱化石燃料の 昨年の総選挙は国民を統治の主体 めの応分の負担も必要でしょう。 療や年金や介護の充実も、そのた れます。支え合い社会のための医 も未来に向けた試行錯誤と受け取 ならないからです。 ればなりません。 未知なる世界へ果敢に挑戦して 者に変えました。 国づくりは等身 子ども手当や高校授業の無料化 日本型モデル」を築き上げなけ しかし、経済の衰退で国は滅び 一億総中流社会も一時、低賃金 経済で国は滅びない 国を滅ぼしては

国民所得は現在十九位、四十二年

大の提案から始まります。